

地域活動協議会モデル地域の状況等について

平成23年5月末現在

地域名	地域概要	地活協の形成に向けた取組み	形成時期	地活協形成に向けた課題
市岡 (港区)	・古くから居住している世帯と、マンション等新しく居住する世帯が混在。 ・地域上げての避難所開設訓練や、地元商店街との協働イベント等を積極的に実施。	・3月、地域の課題や今後の取組みについて話し合うワークショップを開催。 ・5月、連合、地域社協役員などによる地活協形成に向けた検討会を開催。	[準備会] ・23年6～7月頃予定 [地活協] ・時期未定	・地域がどのようによくなっていくのかを地域活動の担い手の方々に十分に実感いただけていないため、地域で主体的に取り組んでいこうとする気運の醸成が求められる(行政からの提案に沿って理解を進めながら取り組んでいる)。
大江 (天王寺区)	・神社仏閣、古い町並みが残るが、近年マンション建設により人口増加。 ・地域一体となり避難所運営開設訓練を実施、大江ふれあいまつりなどには、若手の参画も得ている。 ・要支援者支援の「ご近所助け合いネット」に、2町会(大岸・東門)がモデルとして取り組んだ。	・2月、連合定例役員会で各町会長に説明。 ・5月、準備会設立に向け地振、社協、女性会等各種団体との「協議の場」開始。	[準備会] ・23年7月頃予定 [地活協] ・24年2月頃迄に予定	・地域全体での情報共有が必要 ・住民への浸透を図るためアンケートの実施
五条 (天王寺区)	・閑静な住宅地、市営住宅の建替に伴い、新住民が転入予定。 ・地域の恒例行事が、児童生徒と地域の人たちとの世代間交流の場となっている。 ・また、和太鼓を通じた活動も盛ん。 ・地域一体となり避難所運営開設訓練も実施。	・2月、連合町会長会議で説明。 ・3月、女性会、青少年団体、民生委員等各種団体長に対して説明。 ・5月、準備会設立に向け地振・社協・女性会等各種団体との「協議の場」開始。	[準備会] ・23年7月頃予定 [地活協] ・24年2月頃迄に予定	・地域全体での情報共有が必要 ・住民への浸透を図るためアンケートの実施 ・協議会への参加団体を増やす
聖和 (天王寺区)	・市営住宅の老朽化、賃貸マンションの増加。新旧住民が混在、子育て世代も増えている。 ・「聖和寄り合いまちづくり」は、地域の次世代を担う若手世代が集まり、ワークショップなど様々な活動を実施。 ・また、地域一体となり避難所運営開設訓練を実施。	・3月、地振、社協、民生、女性会等地域の19団体の代表に、説明。 ・6月、「協議の場」づくりについて、連合会長、地区社協会長と打合せ。	[準備会] ・23年7月頃予定 [地活協] ・時期未定	・地域全体での情報共有が必要
今里 (東成区)	・老朽住宅密集地域。 ・地域防災の先進的な取組(夜間・宿泊訓練)を実施。 ・最近では、商店街の空店舗「パトリ」に高齢者の交流地点を設置。 ・ホームページ、ブログで情報発信など広く住民に地域活動情報を周知。	・1月、ワークショップ開催。 ・4月、「協議の場」立ち上げ。メンバーは、連長(地域社協会長)、福寿会長、子ども会長、町会長などの6名。	[準備会] ・23年6～7月頃予定 [地活協] ・時期未定	・地活協について関係諸団体以外の住民には浸透していない。(アンケート等活用) ・地元商店街が参画できる仕組みづくり。 ・多様な課題をまとめていく仕組みづくり。(多様な団体の参画、専門部会の設置など)
深江 (東成区)	・一部老朽住宅密集地がある地域。 ・放置自転車対策「ノーチャリデー」や、歴史資源を活用したイベントに取り組む。 ・ホームページ、ブログで情報発信、地域新聞の発行など広く住民に地域活動情報を周知。	・1月、2月ワークショップ開催。 ・4月、「協議の場」立ち上げ。メンバーは、連合、地域社協から7名、その他防犯、青指、民生委員、ネットワーク委員会、小学校長の6名の計13名。	[準備会] ・23年6～7月頃予定 [地活協] ・時期未定	・地活協について関係諸団体以外の住民には浸透していない。(アンケート等活用) ・まちおこしの事業を進めるための財源確保の仕組みづくり。(企業等の参画) ・地域特性を反映させて、課題をまとめていく仕組みづくり。(地域事情が異なる)
榎本 (鶴見区)	・人口が区全体の約15%を占める。 ・自由度の高い「あいより」から実現した取組も多い。 ・100年後を見据えたまちづくりをめざす。	・1月、榎本社協まつりの開催に向け、「あいより」メンバーを中心に社協17団体、町会などで「協議の場」設置。	[準備会] ・23年6月頃予定 [地活協] ・23年11～12月頃予定	・団体の役員だけでなく、地域全体での合意形成に向けた情報発信と共有化。

市民による主体的な地域運営の状況把握の目安

地域の各段階 めやす	第1段階 機運づくり	第2段階 「協議の場」の設置	第3段階 「準備会」の設置	第4段階 「地活協」の設置・運営
地域運営の 基盤強化	【現状として】 ■各種地域団体の役員相互が顔見知りになり、意見交換ができる状況にある ■役員（リーダー・リーダーを支える人材）において、地域運営を主体的に行うことへの意識が高まっている ■団体運営が民主的で、透明性が確保されている	【現状として】 ■地域運営の仕組みづくりについて、連合振興町会及び地域社会福祉協議会の役員が理解し共有されている	【現状として】 ■地活協（準備会）の設置に向けた検討を進めていることについて、各種団体役員が認識共有している	【現状として】 ■新たな団体やグループのつながりの必要性を理解し、ネットワークづくりが行われている ★活動の担い手が固定化しないような工夫が行われている。（新たな担い手） ★自主財源の確保に向けた取組みが行われている ★事業計画の企画、実行にあたり、地域で事業の振り返りが行われている
課題・ニーズ 把握			★地域ニーズの把握、地域ビジョンの共有・その具体取組	
			★地域団体・住民から意見を受ける機会	
情報共有・ 情報発信		■地活協等について（設置に向けた検討、取組み）の共有・広報		
	★住民間で（まちの現状や課題、準備会規約、地活協規約等）について共有			

・■は各段階において望ましいと思われる地域運営の状況を、★は地域実情を柔軟に勘案し、状況をチェックする目安